

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300738		
法人名	有限会社 ハビネス		
事業所名	グループホーム ハビネス守山 1階		
所在地	名古屋守山区西城2丁目9-29		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2371300738-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋守山区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和元年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ハビネス守山」は落ち着いた雰囲気のある住宅地にあり、モダンな総タイルの建物です。季節の花が玄関前のアプローチに色とりどりに咲いています。南向きの陽当たりの良い広々としたリビングは、特に入居者様のお気に入りです。食事は旬の素材を取り入れた手作りを提供しています。また、訪問看護や訪問リハビリ、内科医、眼科医、歯科医の往診もあり医療面においても充実しております。「明るく、楽しく」をモットーに入居者様とスタッフの笑顔が自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは3ユニットのホームであることで、夜間は3名の職員を配置する体制がとられており、職員間で柔軟な対応を行うことができる体制でもある。ホームには身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、職員間で利用者に合わせて食事内容の検討等、一人ひとりに合わせた支援内容の検討が行われている。医療面での支援も行われており、利用者の健康状態等に合わせた必要な対応が行われている。利用者の中には、ホームで最期を迎えた方もあり、医療面での連携を深めながら、最期まで過ごすことができる生活環境がとられている。また、ホームには勤務年数の長い職員が多く勤めていることもホームの特徴でもある。勤務年数の長い職員による利用者への継続的な支援が行われていることで、利用者に関する細かな状況等の把握や家族との情報交換にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をスタッフの目につくりビングに掲示し、リーダー会議などで常に確認しスタッフ全員が理念に基づいて介護できるように取り組んでいる。	利用者の尊厳を守ることを目指した基本理念を掲げ、職員が理念の内容を利用者の支援につなげるように、定期的に理念を振り返る機会がつけられている。また、理念をホーム内に掲示し、日常的に意識する機会もつけられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	可能な範囲で、ホームからの継続的な働きかけをしています。	ホームは地域の自治会に入り、回覧板等から地域に関する情報交換等が行われている。地域の方との交流を行いながら、地域の方の理解と協力を得ながら、ホームにボランティアとして参加してもらう機会がつけられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会に入会し運営推進会議に町内会長にも参加願ひ認知症の方のお話を聞いて頂き理解や支援を得られるようになってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの通信にて、ご家族様へのご参加を試みるも現状のところ参加者がいません。引き続き働きかけをしていきたい	会議の際には、地域の方の参加が得られていることで、定期的な地域に関する情報交換にもつながっている。また、医療の専門職の方の参加も得られていることで、会議を通じて、医療面での助言等が行われている。	ホームでは、家族にも案内を行っているが、現状、家族の参加が難しい状況が続いているため、ホームからの継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所の保護係の方とは連絡を密に取り協力関係を築いている。	ホームでは、運営法人の関連事業所と合わせて、市担当部署との情報交換等を行い、不明点などの解決につなげている。また、地域包括支援センターとも利用者に関する情報交換等の取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを作成し、フロアリーダーを中心に全スタッフが理解し拘束をしないケアを実践し介護の現場に活かしている。	身体状態の重い方も生活しているが、身体拘束を行わない方針で支援が行われている。建物構造上の制約もあるが、利用者に合わせた随時の外出等も行われている。また、運営推進会議を通じた定期的な検討や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ間にて情報を交換し合い常に支援の在り方について話合っている。利用者の心、身体の変化に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護センターを利用されている方もいらっしゃるのスタッフの理解や関心は高い。必要な方には支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設見学や契約時には特に十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が面会時にはスタッフが近況報告し、家族との話し合いの場を作り要望等をお聞きしている。	ホームの取り組みとして、毎月のホーム便りの用紙にリーダーの名前を明記してあり、家族からの要望等を出してもらう窓口にもつながっている。また、毎月のホーム便りには、利用者毎の報告を記載する取り組みも行われている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回はカンファレスを開くとし、リーダー会議も月1開催し話し合いの場を設け改善に向けている。	毎月のフロア毎の職員会議やリーダー会議が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、法人代表者が管理者を務め、日常的にホームに勤務していることで、職員との随時の意見交換等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい職場環境とやりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修には順次受講し人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	機会があれば出席するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	穏やかに声掛けし不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学、面接時や入所当初は特に注意を払い信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族様の要望や入居様の様子を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に過ごし家族のつもりで言葉がけにも思いやりを忘れず良い関係を築く事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人にはスタッフと家族も仲良しである事を知って頂ける様、信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に面会に来て頂ける様近況報告したり、又お茶をお出ししたりして対応に努めております。手紙を書いたり電話を掛けたり馴染み人との関係が途切れない様な支援も行っています。	利用者の中には、入居前からの生活習慣を継続している方があり、関係の方との定期的な交流が行われている。家族との外出も行われており、家族の協力も得ながら、行きつけの美容院を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないように性格を良く把握し、スタッフが声掛けし話題作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も電話には快く対応し、外出先でご家族様とお会いした時も情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人からよく話を聞き、希望する事など把握するように努めている。利用者や家族はなかなか意見を言われたい方もいらっしゃるが会話の中から汲み取る努力をしている。	ホームの特徴として、長く勤務している職員が多いことで、利用者に関する細かな状況等の把握にもつながっており、職員間で意見交換を行いながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、定期的なカンファレンスの取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人とお話や、ご家族からの聞き取りをまめにするように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録や様子からご本人は何に感動し元気になるか、探りながら見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ全員で(介護記録)(申し送りノート)を活用し介護の内容をチェックし合う事している。状態変化があれば随時評価をし直し、カンファレンスを行い作成し直しをしている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、変更した部分を色を変えて表示することで、職員間で支援内容を共有する取り組みにつなげている。また、職員間で利用者に関する検討を行いながら、モニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員で情報を共有し気づいた事があれば申し送りノートや介護日誌を通じて介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問理美容の利用や誕生月の外食や行事に応じた食事やおやつを提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	気候の良い時に近くの白山神社へ詣りその折ご近所を散歩している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による定期的な往診(内科、眼科、歯科)や訪問看護を行っており本人や家族の不安や相談に迅速に対応できるように努めております。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われていることで、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。また、協力医療機関の看護師が定期的に訪問しており、医療面での支援や協力医との連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医より、訪問看護を月2回実施し日々の健康管理に努めている。特変などには24時間対応して相談し必要があれば医師が駆けつけて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院の相談員と連携を取り情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入院時には必ず重篤化した場合や終末期の対応について、御家族からの希望をお聞きし常に協力医療機関との連携を持ち取り組んでいる。家族に(事業所で出来る事)を説明、理解を得るよう取り組んでいる。ここで対応出来ない場合は他施設及び病院等へ転居の対応も支援している。	ホームには、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、医療面での連携も深めながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。また、利用者のカンファレンス等を通じた、職員への看取り支援等の指導等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	カンファレンス時に心肺蘇生法や急変時の対応について、訓練を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練を行い日頃より意識している対応マニュアルの確認、地域の自治会長とは、入居者の様子をお話し協力体制を築きスムーズな避難が行えるようにしている。避難時の食料品等を追加し準備している。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われており、職員間で連携につなげている。災害に関する地域の方との情報交換が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームの建物の構造上の制約もあり、非常時における利用者の避難経路が限られている。身体状態の重い方も生活しているため、継続的な職員間で連携した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として尊重し自尊心を傷つけることがないように特に言葉掛けには、プライバシーを損ねないように対応している。声が聞こえにくい方には耳元で大きく声掛けをするようにしている。	基本理念には、利用者の尊厳を大切にすることを掲げてあり、職員が理念の内容を意識しながら、利用者の対応や言葉遣い等につなげる取り組みが行われている。また、利用者の対応等に関する定期的な振り返りの機会もつづられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いを良く傾聴し、出来る限り希望を実現出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の表情や言葉、行動などから体調を見て、声掛けを行ったり、そっと様子を見るようにしている。一人ひとりの希望や思い、その日のペースなどを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみには心掛けている。女性の方にはお化粧品をして楽しまれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の食べたい物を聞きメニューに反映したり、食後の食器を拭いたり出来る事を一緒に行っている。誕生日、行事時にはケーキや行事に応じた和菓子を提供している。	職員でメニューを考えて調理が行われており、利用者の好みや嗜好等に合わせて個別に別メニューで調理する取り組みが行われている。利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、行事等に合わせた食事作りも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、食事と水分の摂取量チェック表に記入し体重も月1度チェックし体調の変化にも気を付け個々に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨き指導や介助をしている。歯科医や衛生士より口腔ケアも必要な方には実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンをつかみ自立に向けて個人のペースに合わせたトイレ誘導、介助をこまめに行っている。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行い、利用者に合わせて支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら検討を行い、排泄状態が改善した方もいる。また、医師、看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事には野菜を工夫したり、食物繊維を多く含まれたメニューや水分摂取に努め個々に適宜運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は一人ずつスタッフと会話しながら、ゆっくりと入浴している。	入浴については、週2回の午前中の時間に入浴するように支援が行われている。入浴を拒む方への随時の声かけも行われている。身体状態の重い方に合わせた職員複数での支援も行われている。また、季節に合わせた入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングでのテレビ鑑賞や昼寝も自由にして頂いております。空調も季節に合わせてタイマーを利用しスタッフが調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は特に注意を払い、又説明書をチェックし投薬変更の時には、副作用等がないか医師や看護師にも相談しながら注意深く見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーション(歌・トランプ等)やお手伝いの声掛けを通して一緒に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候に応じてご近所を散歩したりお誕生日の月には利用者様のご希望でランチの夕食を楽しんでいます。	季節や天候等にも合わせて、近隣を散歩する等の機会がつけられている。季節に合わせた外出行事が行われており、花見や公園等への外出の機会がつけられている。また、利用者の意向等に合わせた個別の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理は難しくトラブルの元になる事も多くハピネスにて立替で利用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様からの電話や手紙のやり取りは自由にして頂いております。ご本人からはご家族からの希望等も取り入れ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るく清潔に保てるよう空調もまめに温度調節している。季節を感じる花の鉢を置いたり、掲示物を廊下に貼り出している。リビングがお気に入りの利用者様が多く、ほぼ1日をリビングで過ごされている。	ホームのリビングが南向きにあり、大きな窓が設置されていることで、利用者の日中の時間を明るく過ごしている。また、ユニットの出入口にある掲示板には、利用者の作品を掲示する等の取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを置き新聞を読んだり、パズルをしたり気の合った方同士のお話に利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具の持ち込みや誕生日の写真を思い思いに飾っている。	利用者や家族の意向等に合わせた様々な持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気のある居室もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室にはベッドが備え付けとなっており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所が分かるよう大きな字で貼紙等をしたり、ベッドの高さやテーブルの位置等、出来る限り安全面にも気を配り一人一人に合わせて工夫している。		